

2008.11.17.

「(仮称)新武蔵野クリーンセンター施設まちづくり」に関するいくつかの疑問・意見

(仮称)新武蔵野クリーンセンター施設まちづくりに関する関係者の方々のご努力に敬意を表しあげます。今回、委員会の傍聴を続けます中で、疑問点・意見・提案など、とりあえず気がついたことを以下に申し上げます。何とぞお目通しの上、今後の委員会への反映、必要な部分へのお返事など、よろしくお願い申し上げます。

1. 当該委員会の検討項目などに関して

委員会は(1)新施設の整備用地 (2)新施設の在り方 (3)新施設の周辺の地域のまちづくり (4)その他新施設について市長が必要と認める事項 について検討・報告することになっています。

(1)新施設の整備用地について

用地については、現施設の敷地か否かが明確ではない段階で、現実的には(2)の「新施設の在り方」の検討をすることによって(1)にすすむと言う順序で検討をすすめるべきと考えます。どういう内容・機能などをもったどのくらいの大きさの建物が建つのがわかって、初めて「場所」が出てくるのではないのでしょうか？

(3)周辺のまちづくりについて

周辺のまちづくりについては、周辺住民がじっくりと取り組むためにも、今回のような時間的制約のある中で無理に形をつくる必要はないと考えます。

(2)を検討するための前提について

行政がごみ処理に関する総合的な理念をもって十分な情報を公開することが必要だと考えます。未来を見据えての武蔵野市のごみの減量を含めた市民ぐるみの合意づくりが必要です。石油に依存することが続くとはいえない昨今の状況は、温暖化の加速とともに、抜本的なごみ減量の意識・対策が求められています。それは費用の面からも、少子高齢化を持ち出すまでもなく、財政を支える人口をいくらと見るのかにもかかわる問題です。

(2)施設の在り方を検討するにあたり、明確にすべき諸問題

現施設をなぜ建て替えなければならないか。
使い続けることの可能性について。
施設を1ヶ所にしたほうがいいのか。(数箇所に分散してつくる方が多くの人にとり問題意識に上ると言う側面も検討すべきではないか)
他市との連携についての可否は？
ごみ量の将来予測についての幅広い合意が必要。(ごみ質の変化で、量は減るか、増えるか)
減量化の徹底(ごみにならない製品をつくることを生産者に求める、市民自身も減量を徹底する、国や都にもその方向を求めるなど、減量化を進めつつ処理システムを考えるべきである。

現クリーンセンター建設に伴う全費用を資料として提出すること。(市民一人ひとりの分担金額を明らかにすることにより議論が活発になる)

今後かかる費用の予測および予想されるランニングコスト。

機種別の長所・短所・費用の比較表。

多摩地域の中でも武蔵野市に隣接し現在進行中の小金井市、三鷹市の例などの提示。(委員会への提出資料は23区内の例が多いが、近隣自治体の例の方が参考になるのではないか?)

委員会への説明に、現場の職員の出席を願う。(今までのパシコンの説明より分かりやすいと思われる)

建て替え時のごみ処理についての方策について、考えを問う。

現在のように不透明な事柄が多い段階での委員会の広報活動については慎重を要する。

2. その他

(1) 今回委員会で取り組まれているような大きな課題に対しては、多くの場合総論賛成・各論反対になりがちなものであり、そこに委員会や事務局のご苦労もおりになるであろうと存じます。

急がば回れのことわざどおり、また、前述したように急がなくてもいい(あるいは急がないことによって別の効果も期待できる)周辺まちづくりについての議論は後回しにしても、大事な施設や用地選定の前提となるべきところの議論に時間を割くなど、後に悔いの残らないような委員会の中味とご成功を期待しておりますし、行政の力量にも注目しております。

関連する必要な資料をすべて共有し、その上で多様な意見をかわしつつ、地球環境・子どもたちの未来・周辺住民の住環境・現在未来をも含む住民の担税力などに配慮したものが合意されるよう願っております。次の世代に、胸を張って安全な大気を吸うことができる環境を、そして健全な武蔵野市の財政を渡すために、今できる努力を惜しむべきではないと思いますし、今こそ市民参加の実が問われるときであると言えます。

(2) 今回の施設に関する議論や、その前提に関する議論の内容・順序・資料の選定など、委員会の内容、市民へのごみ問題にかかわる関心の喚起などに大きな影響を及ぼします。つきましては、議論の前提となる資料の充実を求めたいと思いますし、委員会での事務局の説明も市の担当者、現場の職員が担っていただきたいと思います。コンサルクシト社に頼りきりにならないようお願いしたいと思います。